

新型コロナ問題で共産党が市長・教育長に緊急申し入れ

4月24日、日本共産党釧路市議団は、新型コロナウイルスの対策をめぐって、蝦名大也市長と岡部義孝教育長に緊急申し入れを行いました。市民の命と健康を守ることはもちろんのこと、暮らしと営業にも大きな影響が出ています。一斉休校による子どもたちへの影響も深刻です。共産党議員団は、切実な市民の声を集めて市に伝え、対応を抜本的に強めるよう求めました。（共産党議員団の申し入れの骨子は左端に掲載）

市の総合的な支援策は？

釧路市のコロナ対策は、事業者のつなぎ融資と上下水道料金の二か月免除、道の休業支援金に対する上乗せぐらい。事業者の家賃補助も、市民全員への応援策もほとんど見当たりません。

村上かずしげ議員は、

「市民の間では消毒液も手に入らないとの声が相次いでいる。総合的な支援策をまとめて早期に臨時議会の開催を。」と強く求めました。

介護現場では、デイサービスの利用者の急減で経営危機が表面化、一方、ホームヘルパーさんは感



染の危険と背中合わせの厳しい現実に置かれています。こうした実例を示して市の支援を求めても、「こまめに情報は聞いて、困りごとには対応します。」というだけで、具体策は語りません。

市長の顔が見えない

「市民には市長が何をしようとしているのか、さっ

◆釧路市への申し入れ◆

- ① PCR検査センターの設置。
- ② 病床、および軽症者の宿泊施設の確保。
- ③ 医療機関での感染防止用具の確保。
- ④ 介護施設の減収分の補填。
- ⑤ 事業者の家賃など固定費の補助。
- ⑥ 小規模事業者に一律10万円の給付。
- ⑦ 職を失った人を市の期限付職員として雇用。
- ⑧ 全市民の上下水道料金の免除。
- ⑨ アルバイト収入などが減った学生への支援。



ぱりわからない。非常事態なのだから市長が直接、市民に呼びかけたらどうか。」と市長の姿勢を質すと、「すべての会派からそんな指摘をいただきました。昨日、市民に訴えるビデオを撮りました。各種の支援策についても分かりやすく解説したものを提供したい。」と、さすがにこれだけは神妙な面持ちで答えていました。

まるで大災害のような事態

教育委員会への申し入れを受けとった岡部義孝教育長は、「戦後最大の難局、学校にも極めて大きな影響が出ている。この要望は理解できるし、検討したい。」と述べました。

「前回の休校で30時間の授業ができなかった。4月の休校解除で取り返した分もあるが、今回は50時間分ができない。」と履修内容の厳選が避けられないという認識を示し、「仮に夏休みに授業をすることになれば、今回提供しなかった分の給食をその時に提供したい。」とも述べました。

「感染防止のため、仮設の教室をつくり、教員を増員すべき。」との要望には、「仮設校舎は多額の費用が掛かり考えていない。教員の増員は市教委には権限がない。」と前向きとはいえないがたい答弁でした。

◆教育委員会への申し入れ◆

- ① 子どもたちの居場所、遊び場の確保。
- ② 虐待が心配される子、児童養護施設の支援強化。
- ③ 教職員の在宅勤務の推進。
- ④ 履修すべき内容を基礎的内容に厳選すること。
- ⑤ 学校給食の提供の検討。
- ⑥ 教室で子どもたちが1メートル以上離れられるようにする。消毒液、体温計の配給など、感染防止策の徹底。
- ⑦ 機械的に夏休みを短縮せず、保護者や子どもたちによく説明したうえで行うこと。



村上かずしげ 20.5.3 通信

発行 日本共産党市議団 TEL22-6121